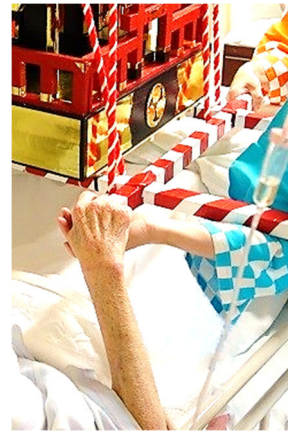




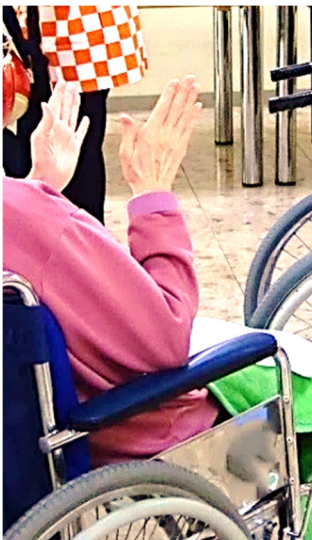
# プシユケ



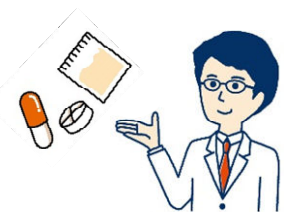
清和だより  
第98号



秋祭り







昨今、ジェネリック医薬品をはじめとする医薬品の供給不足が続いています。「患者さまに必要な薬が十分量行き届いていない＝通常の供給ができていない」ということです。通常の供給とは、全て注文通りに供給されている、または販売業者にも十分な在庫がある状態のことですが、それができていない医薬品の割合は、全体の 22.3%だそうです（日本製薬団体連合会の調査 2023 年 6 月時点）。これはかなり大きな数値で、現場でも本当に必要な医薬品を患者さまにお渡しすることができていないことを実感しています。ではなぜこのような状況が続いているのでしょうか？その理由には4点あると考えています。

### ①ジェネリック医薬品メーカーの不祥事

不祥事の発覚が相次ぎ、2020年12月以降、業務停止命令などを受けて多くの医薬品の生産量が減少しました。不祥事とは主に、“医薬品の製造方法などを国に承認されていない方法で製造していた”ことなどです。

### ②海外の工場での事故や災害

原薬（医薬品の元になる原料）の製造が停止してしまったり、コロナ禍により輸送も遅延してしまい、原薬の調達も困難になりました。

### ③薬価制度の問題

医療用医薬品の価格は市場実勢価格に合わせ国が決めっていますが、医療費削減のため今では毎年のようにほとんどの医薬品の価格は下がっていきます。一方最近では様々な理由から製造コストが上がっていく中、薬の価格は自社では上げられないので、品目によっては作るたびに赤字になってしまうため止む無く出荷に制限をかけたり、製造を中止する医薬品もあるようです。

### ④特定の医薬品の需要増加

新型コロナウイルス感染症や子供の風邪が流行し、解熱鎮痛薬や咳止め、去痰剤などの風邪症状に使われる医薬品や細菌感染症に使用される抗生剤の需要が増えていて、それに製造が追いついていない状況も続いています。（8月時点）



製造を続けているメーカーの中では、製造工場を夜間や休日にも稼働させて増産しているところもありますが、それでも注文増に対応するのは難しいようです。生産体制を変えるのも簡単ではありません。医薬品を製造する・増産するには綿密な生産計画を組む必要があり、特定の薬の増産が必要になっても対応できないようです。

以上の要因が絡み合い医薬品の供給不足・不安は続いていて、今後数年続くとも言われています。私たち医療機関としては、これからも製造メーカーや卸売り業者と密に情報交換しあいながら医薬品の供給に努めていきたいと思っています。

薬局主任

# 骨の話～骨粗鬆症



栄養課だより  
シリーズ2

私たちの骨は常に新陳代謝を繰り返しています。正常な骨は、骨を壊してつくる『骨代謝』のバランスがとれています。そのバランスが崩れると骨量が減少して骨がもろくなり、骨粗鬆症を起こしやすくなります。

また、女性ホルモン的一种であるエストロゲンは、骨からカルシウムが溶け出すのを抑える働きがあるため、閉経期を迎え女性ホルモンの分泌が低下すると、急激に骨密度が減少します。そのため、同年代の男性に比べ女性の方が早く骨密度が低くなり、骨粗鬆症のリスクが高まってしまいます。



## 骨粗鬆症を予防するためにできること

骨の形成には、カルシウムやビタミンD・ビタミンKなど多くの栄養素が関わっているため、それらの栄養をバランス良く摂ることが大切です。

### カルシウム

骨の主成分です。牛乳（乳製品）・小魚・大豆（大豆製品）などに多く含まれます。

### ビタミンD

食事で摂ったカルシウムが腸で吸収される手助けをします。魚（鮭・ウナギ・サンマなど）や、きのこ類などに多く含まれます。



日光に当たることにより、体内でもビタミンDはつくられます。

### ビタミンK

骨をつくるのを助けます。納豆・緑色野菜などに含まれます。



## バランスの良い食事を心がけていても…気をつけたいポイント！

アルコールを飲みすぎると、食事で摂ったカルシウムの腸管からの吸収が妨げられてしまいます。また、コーヒーを飲みすぎると、コーヒーに含まれるカフェインの利尿作用によって、尿からカルシウムも一緒に排出されることがあります。これらの飲み物の摂りすぎにも注意が必要です。



ホルモンバランスや食生活の乱れで、骨密度が低下し骨がスカスカにならないように、カルシウムやビタミンの摂取とバランスの良い食事を心がけ、骨粗鬆症を予防しましょう。

栄養課

# もしも！のときに備えています

## 災害対策委員会



2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。

その後も国内各地で自然災害が発生し、当院においては、災害対策を強化する目的で、2015年3月11日、医療安全管理委員会の下部組織として、災害対策委員会が発足しました。

災害対策委員の主な活動内容は、作成した災害対策マニュアルの定期的な見直し、災害時初動訓練マニュアルの実施及び見直し、安否確認システム「オクレンジャー」の導入と定期的な活用訓練、消防訓練の実施などがあります。

近年ではコロナ禍があり、災害よりも感染対策に力を入れざるを得ない状況が続いています。しかし、またいつ災害が起こらないとも限りません。東日本大震災以来、埼玉県では同様の災害は起きていませんが、全国各地で記録的な大雨や台風、大雪などの自然災害による様々な被害が報告されています。また南海トラフ地震がこれから何年・何十年後に起こるのではという予測もよく話題に上がります。

いつか、突然やってくるその時に、出来る限りスムーズに事業継続を行なえるように、災害対策活動を継続していきたいと考えています。



ある日の  
消防訓練の様子



散水ホース  
を伸ばし...



バルブ開  
けます。

事務部



～未来を担う



皆さんのために～

コロナ禍により受け入れを中止していた、実習や体験学習の受け入れを再開しました。今年度は、東京家政大学健康科学部看護学科、青山学院大学教育人間学部心理学科、日本大学医学部の学生に、それぞれに学んできた対人援助の方法について実践したり、多職種が関わる実際の現場を体験して頂いております。

今後ますます重要になる高齢者の医療や福祉。その道を志す学生が増え、新しい風を送り込んでくれる事を願っています。

## 「プシュケの歩み」～その3～



多くの方々のご協力を得て、広報誌「プシュケ」の紙面が成り立っています。それぞれの記事は、職員の資格に基づいた専門知識をお伝えする他に、当院の様子や出来事をお伝えする一面もあわせ持っています。執筆された方の経験や思い、人生観に至るような考えなど、その方の人となりに触れられる機会となることもあります。

“患者様にインタビュー（趣味編、仕事編等）”の記事では、私たちの知らない時代に得られた、充実した貴重な体験が生き生きと載せられ、毎回心に響くものがあります。

色々なやりとりや思いが詰まったプシュケは、手に取られた方にどのように映っているのか、思いを巡らせながらつなげていきたいと思っております。





8月『展示会』では患者様の書や生け花の作品、様々な活動写真を展示しました。患者様の普段の生活の様子を見ていただく機会であり、作品を披露する場がある事で患者様の意欲にもつながっていると思います。

8月展示会 患者様作品の展示/活動紹介



9月敬老会 ご長寿者名の掲示/お祝いのお花



9月『敬老会』では、100歳以上の方々の写真撮影とお花の贈呈、ご長寿祝い（還暦～百寿）にあたる方々にはお名前の掲示をして、お祝いの声かけをさせていただきました。今年100歳を超える当院の患者様は10名で、最高齢の方は105歳です。

敬老会の行事を通して、一人一人の患者様から人生を歩まれた歴史を感じさせてもらっていると思います。表情や話し方、たたずまいなどから尊い歴史が垣間見え、毎年「おめでとうございます」と共に「私たちに様々な事を教えていただきありがとうございます」と感謝の気持ちを込めて言葉を贈っております。

10月『秋祭り』の様子は表紙の写真を見ていただくと、とても賑やかに盛り上がったことが分かっていただけていると思います。

＜レク行事予定＞

秋祭り	10月10日(火) ～10月21日(土)
上映会	11月6日(月) ～11月18日(土)
クリスマス会	12月11日(月) ～12月23日(土)

※予定が変更となる場合があります

✍️ 編集後記

好きな映像を観ていると、時間を忘れます。インターネット配信等、気軽に家で楽しめる快適さは日常のものとなりましたが、その分、体を動かしていないことに気がきました。心と体が健康でいられるよう日々の習慣に何か取り入れなくては…と考え始めてからどのくらい時間が流れたのでしょうか。

清和便り **プシュケ第98号**  
令和 5年 10月15日 発行

医療法人 清和会  
新所沢清和病院 LT室(文責)  
E-mail: mailt@hp-seiwa.org  
HP: https://www.hp-seiwa.org/